

# 地域の廃油集め

## 「省エネ車」走る

### 山形の運送会社「バイオ燃料」活用

省エネ・省資源に貢献しようと、運送会社「第一貨物」（本社・山形市）が天ぷら油などの廃油から作るバイオディーゼル燃料（BDF）の本格的な活用に力を注いでいる。地域の飲食店やホテルなどに協力を呼びかけて廃油を集め、理念に賛同したNPO法人などとも連携を深めている。

## 飲食店・ホテル協力

同社は2005年にBDF生成装置を導入。取引先などから集めた廃油でBDFを生成し、トラックの燃料に利用してきた。

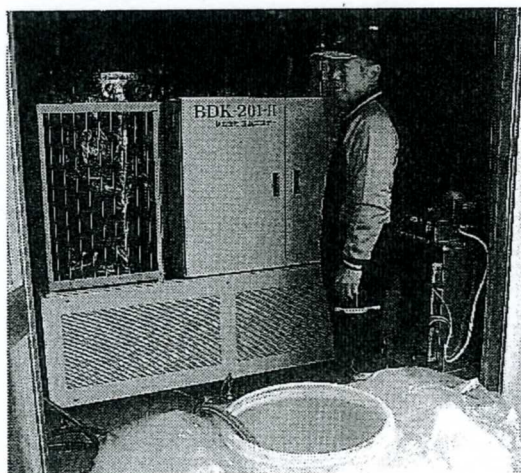
月1千㊦程度だったBDFをもっと増やそうと、このほど新たに地元のは店やホテルなどにも廃油の提供を依頼。1月から応じてくれた約20店舗を巡回して廃油を集めている。将来的な目標は月4千㊦で、協力先が増えれば地域ごとに回収拠点を設ける予定

だ。同社によると、BDFの生成に費用がかかるため、

廃油を有料で引き取るのは難しいという。ただ、生成時にできる余剰物のグリセリンを使ってせっけんなどを作り、謝礼代わりにできないか検討中とい

う。また4月からは、山形市の家庭や企業の環境診断活動をしているNPO法人ピルトグリーンジャパンと連携し、一般家庭からの廃油

第一貨物が1月に導入したBDF生成装置。1回で200㊦作ることができ、山形市北町3丁目の同社山形支店



収集を計画している。同法人の地域のネットワークをいかして協力を呼びかける。

同法人理事長の荒井正幸さん(64)は「第一貨物のBDF生成装置と、私たちのネットワークをうまく組み合わせたい」と話す。

さらに同社は1月に生成装置を刷新。天童市のエムエスデー社製を導入し、従来93・3%だったBDFの純度が99・4%に上がったという。同社の伊藤賢児・施設車両部長(60)は「BDFの本格導入の課題は、廃油の集荷態勢とBDFの質の確保。様々な機関と協力しながら少しずつ克服していきたい」と話している。(畑山敦子)